● 福島民報　　2011年12月16日

中高生 揺れる進路

県外就職増で内定率改善

東日本大震災は福島、岩手、宮城三県の高校生の就職や進学にも影を落としている。東京電力福島第一原発事故で学校が一時移転したことから、高校選択にも影響を与えうるだけに、進路をめぐり、被災地で揺れる中高生の現状を追った。

東日本大震災の影響で厚生労働省の九月末時点の調査で、二〇一二年三月卒業予定の高校生の就職内定率は福島、岩手、宮城の三県とも前年同期比3・8～6・3ポイント減の33・8％～48・7％に改善した。厚労省は、県内の就職先が減ると見越して高校が早くから県外で開拓したと分析する。

就職先が減ったため県内での就職希望者は福島県15・3％減、宮城は19・5％減と大幅に少なくなり、逆に県外は福島17・9％増、宮城32・7％増となった。

河合塾の調査では、「サテライト方式」で採った県立高の分散する学校の多くの大学で志望者が減っている。国立福島大が前年同期から21％も減り、岩手大は5％減と微減、東北大7％減、私立もいわき明星大（いわき市）29％減（前しょうけい大は横ばい）と軒並み減った。

本県では原発事故の影響が高校受験にも及び、数カ所に分散する「サテライト方式」を採った県立高の場所に戻ったり分散場所を減らしたりしており、中学生は高校選びに悩んでいる。

本県など被災3県

避難準備区域解除の原町高 高校側「ぜひ入学を」 中3生「定員減不安」

「授業をしっかりやるため来年度は遠い一時間やします。ぜひ入学してください。」。原町高（南相馬市）の八巻校長が生徒や保護者に説明する原町高の八巻校長

石神中の3年生に保護者に説明する原町高の八巻校長

原発事故で緊急時避難準備区域に入った。原町高は同市の石神中の生徒と保護者が対象だった。

原町高を目指して勉強してきた三年生の渡部裕君（三）は説明を聞き「地元に戻ってきてほしい」と話した。

「授業をしっかりやるため来年度は遠い一時間やします。ぜひ入学してください。」。原町高（南相馬市）の八巻校長が生徒や保護者に説明する原町高の八巻校長

指定解除で原町高は十月一六日から元の場所に戻ったが、石神中の生徒は原町高に間借りした。

この日は同市の石神中の生徒と保護者が対象だった。

原町高を目指して勉強してきた三年生の渡部裕君（三）は説明を聞き「地元に戻ってきてほしい」と話した。

間借りの学校生活に何かと苦労が多いことは自分も体験している。サテライト方式で十分な授業や部活動ができるか不安を感じている。志望校を変えた方がいいかも」と両親と話し合ったことも。

決意を新たに合格を目指す。募集定員が四十人減ると知り、渡部君は「受かるかどうか不安だけど、ここから頑張らないと」と気を引き締めた。

石神中の星健一教頭は「避難先で保護者も仕事が見つかり、生活の基盤ができている。子どもが戻りたいと考えても簡単にいかない。一人だけでも多く戻ってきてほしい」と話した。

授業料減免や奨学金拡充 福大やいわき明星大など

福大やいわき明星大など県内の大学や専門学校、短大は授業料減免や奨学金の拡充など、東日本大震災で被災した学生への支援を相次いで打ち出している。

福島大は被災の有無にかかわらず全員の授業料を免除する。授業料減免や奨学金の支援を拡充している。

福島大は被災の有無にかかわらず全員の授業料を免除する。授業料減免や奨学金の支援を拡充している。

震災や原発事故の影響で学業の継続が困難になった学生を対象に、授業料減免や奨学金の支援を拡充している。

福島大は被災の有無にかかわらず全員の授業料を免除する。